子どもの仕事理解を支援する親の役割

ニート予防キャリアコンサルタント
NPO 法人学生キャリア支援ネットワーク理事長　橋本光生（はしもと こうせい）

今や子供の就職は大学生の親はもちろん中学高校生の親にとっても一大関心事になっています。子どもが自らの将来を考える上で、いろいろな仕事や会社、地域活動に実際に接する体験を多く持つことは、きわめて重要です。学校の授業でもそうした内容は見られますが、授業以外のさまざまな経験も大変重要と思います。

親の多くは、仕事やボランティア、その他の社会での活動をしていますので、子どもに社会（会社や地域）での実体験の場を提供することが可能です。

下に、私の知人（中学～高校生の親）が実際に行なった身近な事例で印象に残っているものを紹介します。どの事例も子どもにとって有意義な経験となっていると思います。

■ A さんのお母さん

A さんがいろいろな仕事に関心があることから、たまに自分の友人などと食事をするときに A さんも同席させて、実際の仕事について聞いたり質問したりできるようにしました。また、自分の所属するスポーツサークルに A さんを連れて行き、サークルメンバーの社会人との交流の場を持てるようにしました。

■ B さんのお父さん

B さんに「仕事はアルバイトなどでいろいろと実際に働いて経験する中で自分に向いたものを探していくとよい」と繰り返し話していました。B さんは大学に入学すると、飲食業はじめ、10 を超える異なる業種のアルバイトを経験する中で、不動産業で将来独立することを目指し、商社の不動産部門に就職しました。

■ C さんのお母さん

社会に接することが C さんにとって何かの参考になると考えて、市民団体や NPO などが行う体験学習やボランティアなどの企画に親子でときどき参加するようにしていました。あるメーカーの工場見学は特に C さんの将来を考える上でとても参考になりました。

■ D さんのお父さん

D さんが家でお父さんの仕事について興味を持って聞いてきたときには、ご自身の仕事について、大変なこと、楽しいところ、やりがいを感じたことなど自分の体験を中心に話すようにしました。

■ E さんのお母さん

お母さんが市民講座で人の話をじっくり「聴く」実習を受けたので、家で E さんが興味のあること、うまくできたことをじっくりと聴いていきました。E さんはお母さんに話す中で自分の目標についてだんだんと明確にしていくことができ、お母さんも E さんの関心をもっていることが理解できるようになりました。

職業人と接する経験で子どもに次のような変化が見られます。まず、実際の職業人に接する中で自分の将来について考えはじめる。その後出会う社会人に仕事について自分から質問することができるようになる。自分の将来を人生の先輩の経験を参考にリアルに考え始めることで多くのこどもが「生き生き」としてくる。

親の多くは、わが子の進路や将来の仕事に強い関心を持ち、わが子のためにできるだけのことをしたいと考えていますが、実際には何をしていいかわかりにくいのも現実だと思います。しかし、親が自分の職場や地域のつながりを使って現場の職業人との交流の場を作ることはどんな時代でも有意義な機会だと思います。

自分の身近な友人の仕事の話を聞くことが我が子にとっては非常に貴重な経験になるということは多いと思います。